

ビワ生育情報

第 1 0 報
千葉県農林水産部
令和 2 年 7 月号

本年は、果重は3品種とも平年よりも小さく、寒害等の影響で収穫果実数は少なかったため、収量は平年よりも少なかった。
果実品質は3品種とも糖度及び酸度が平年より高く、若干酸味が感じられた。

最近1年間の気象及びビワの生育状況

令和元年7月から令和2年6月までの月別の気象を表1に示した。この1年間の平均気温は16.7℃で、平年より1.1℃高かった。降水量は年合計が2,703mmで、平年の133%、前年の138%であった。日照時間は年合計が1,929時間で、平年の100%、前年の91%であった。

時期別の気象とビワの生育状況を振り返ると、8月以降は平年よりも気温が高かったため、花房の発現は平年より遅く、8月及び9月は日照時間が長かったため、花房の着生率は平年並からやや多かった。関東に接近した台風は4個あり、特に9月の台風15号では多数の園地で倒木等の被害が発生した。冬季の気温は高く推移し、開花の進みは早かった。幼果が寒害を受ける最低気温-3.0℃以下の日は2月に1日あり、寒害が多発生した。開花盛期は早く、4月の気温は平年より低く、5月は平年よりも高く推移した結果、果実の生育は平年より早く進み、収穫期は平年より早かった。

1 令和元年7月～令和2年6月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R1	7	23.5	24.4	26.5	291	194	194	105	169	256
	8	27.1	26.0	26.8	72	144	144	229	217	255
	9	24.4	22.7	22.7	321	250	250	191	145	115
	10	19.7	17.9	18.9	662	250	250	119	137	151
	11	13.7	13.2	14.0	252	148	148	161	145	135
	12	9.8	8.6	9.3	97	85	85	129	165	121
R2	1	8.0	6.0	6.6	204	90	24	206	170	206
	2	9.0	6.3	7.8	51	97	89	102	152	102
	3	11.1	9.2	10.7	244	186	112	170	157	180
	4	13.3	13.9	13.1	199	174	214	191	172	199
	5	18.9	17.8	18.5	105	174	158	186	177	235
	6	22.4	20.7	20.9	207	244	299	140	133	157
平均/計		16.7	15.6	16.3	2,703	2,037	1,965	1,929	1,939	2,111

本年産果実の特徴

1. 収穫期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月25日、5月29日、6月2日、「大房」が5月29日、6月2日、6月5日、「田中」が6月8日、6月11日、6月15日であった。収穫盛期は3品種共に平年より4～5日早く、ほぼ前年並であった。

表2 収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期（月．日）			収穫盛期（月．日）			収穫終期（月．日）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.25	5.29	5.21	5.29	6. 2	5.27	6. 2	6. 6	5.31
大房	5.29	6. 3	5.30	6. 2	6. 7	6. 3	6. 5	6.11	6. 7
田中	6. 8	6.10	6. 3	6.11	6.15	6.10	6.15	6.19	6.14

平年：平成2年～令和元年の平均

2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質を表3、4に示した。果重は「楠」が47g、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ70g、63gであり、「楠」は平年の90%、「大房」は88%、「田中」は86%であった。

横径は「楠」が4.3cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.1cm、4.8cmであり、3品種共に平年よりも小さかった。縦径は「楠」が4.6cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.4cm、5.3cmであり、「楠」及び「田中」は平年よりも小さく「大房」は平年並であった。

果形指数は「楠」が0.93、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.95、0.90であり、3品種共にほぼ平年並であった。

本年の着花房率は平年並～やや高かったが、寒害を被った幼果が多く、最終的な着果量は3品種共に平年より少なかった。また、果樹カメムシ類の被害は少なかった。3品種とも小玉傾向であり、産地全体の収量は平年より少ないと推察された。

3. 糖度及び酸度

糖度は「楠」が12.6で平年並、「大房」及び「田中」は3地区平均で12.0及び12.1で、ともに平年より高かった。

酸度は「楠」が0.17、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.19、0.33で、3品種とも平年より高かった。

4. 食味

果肉硬度は「楠」が0.49、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.54、0.53で、3品種とも平年より軟らかかった。

糖酸比は「楠」が74、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ64、38で、3品種とも平年より酸味を感じやすかった。

5. 病虫害及び生理障害の発生

本年は、収穫期までの果樹カメムシ類の飛来数は少なく、産地における被害も少なかった。クワゴマダラヒトリの食害は平年より多かった。また、生理障害の発生は全体的に少なかった。

表3 果実の大きさ

品 種	調査地点	果 重(g)			横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	47	52	50	4.3	4.5	4.4	4.6	4.8	4.9	0.93	0.94	0.91
	青 木	63	78	76	4.8	5.3	5.2	5.2	5.4	5.2	0.94	0.98	1.00
	南 無 谷	73	78	89	5.2	5.2	5.4	5.5	5.4	5.7	0.94	0.97	0.95
	暖地園研	75	83	89	5.2	5.4	5.4	5.4	5.5	5.8	0.96	0.97	0.93
	平 均	70	80	85	5.1	5.3	5.4	5.4	5.4	5.6	0.95	0.97	0.96
田 中	青 木	64	73	80	4.8	5.0	5.1	5.3	5.4	5.5	0.90	0.93	0.93
	南 無 谷	58	71	69	4.6	4.9	4.7	5.2	5.5	5.4	0.89	0.90	0.87
	暖地園研	68	79	75	4.8	5.1	5.0	5.4	5.6	5.7	0.90	0.92	0.89
	平 均	63	74	75	4.8	5.0	5.0	5.3	5.5	5.5	0.90	0.91	0.90

果形指数：横径／縦径

平均：3地区の平均値で平年値は平成2年～令和元年の平均

表4 果実品質

品 種	調査地点	糖度(Brix%)			酸度(g/100ml)			硬 度(kg)			糖酸比		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	12.6	12.5	12.9	0.17	0.14	0.13	0.49	0.52	0.48	74	91	100
	青 木	12.2	10.7	11.6	0.22	0.15	0.17	0.54	0.56	0.55	55	78	66
	南 無 谷	11.6	10.6	10.7	0.15	0.17	0.22	0.53	0.57	0.56	79	68	49
	暖地園研	12.0	11.4	11.5	0.20	0.18	0.23	0.55	0.58	0.58	59	67	49
	平 均	12.0	10.9	11.2	0.19	0.17	0.21	0.54	0.57	0.56	64	71	64
田 中	青 木	11.3	11.2	11.1	0.38	0.28	0.26	0.54	0.55	0.53	29	44	56
	南 無 谷	12.2	10.4	10.7	0.30	0.31	2.86	0.51	0.56	0.53	41	35	42
	暖地園研	12.8	11.5	12.5	0.30	0.29	0.23	0.54	0.56	0.00	42	41	55
	平 均	12.1	11.0	11.4	0.33	0.30	1.12	0.53	0.56	0.36	38	40	38

糖度：屈折糖度計の測定値、酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値、糖酸比：糖度／酸度

平均：3地区の平均値で平年値は平成2年～令和元年の平均(ただし硬度は平成12年～令和元年の平均)

k

8月～10月の作業

8月下旬～9月下旬がせん定及び施肥の適期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになる。10月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

せん定

8月下旬～9月中旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させることができ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>